



# 南林間小だより

大和市南林間9-3-2

☎ 275-3141

3月号



7月初旬の期間限定で、「ライチの実」が店頭に並ぶことがあります。固い皮の中に白くて柔らかい甘い実が詰まっています、中心に小さいどんぐりのような種が一粒入っています。その種を、何の気なしに埋めてみたら10粒中4粒から芽が出てきました。その小さな芽は、10年以上かけて、2~3mの高さの木になり、たくさんの実をつけるようになるそうです。今年で6年が過ぎましたが、元々は中国の暖かい地方で育つ植物だからでしょうか、背の高いものでも40cm、低いものでは10cmまでしか育っていません。収穫できるようになるまでには、まだ何年もかかりそうです。

そんな小さな植物ですが、地道に成長し続けています。気が付くと、小さく茶色の細長い葉が二枚、出てきます。数か月後、大きく緑色になった葉の根元から、また、茶色の細長い葉が二枚、出てきます。寒さが厳しい冬を迎えると、カサカサになり、何枚かは枯れてしまいます。もうだめかなと思うと、また、茶色の細長い葉が二枚、出てきます。

「ライチ」が、大きく成長し、花を咲かせ、おいしい実を生らせるという目標に向けて、一歩ずつ前に進んでいく姿には、植物がもつ不思議な力とともに力強い意志のようなものが感じられます。

けれども、植物の力だけで育つことはできません。日光をたくさん浴びることができるように、鉢の場所を移動したり、土が乾いてきたら水をあげたり、肥料をあげたり、寒くなってきたら部屋の中に取り込んだり、... 周囲に、気に掛ける人がいて、お世話を受けて、生長し続けています。

毎日生懸命に勉強や遊びに取り組んでいる子どもたちを、小さな植物に例えるのは、大変失礼なことですが、子どもたちが毎日安心して笑顔で過ごすことができるのは、家族の方はもちろんのこと、周りの方々に支えられ、助けられているからです。

そういったことを、普段意識することは、なかなかないのですが、卒業や進級を間近に控え、独特の雰囲気を感じられてくるこの時期、改めて家族の方や、周りの方へ感謝の気持ちを、言葉に表すことができるようになってほしいと願っています。

学校でも、子どもたちが人と正しく関わることができるよう、教育活動を通して、「親切、思いやり」「感謝」「礼儀」「友情、信頼」などに気づき、実践する態度を育てているところです。



「ライチ」からの感謝の言葉を期待してはありませんが、素敵な実が生ることを信じて、これからも世話を続け、見守っていきます。

今月も児童全員が笑顔いっぱい、楽しく過ごす学校づくりに努めてまいります。

(校長 板坂 和明)